

## ◎ 連合会・労協Gだより

労働者協同組合建設コープ設立へ始動——神戸での建設コープ設立へ向かって準備が進んでいる。3月30日を準備会の設立総会とし、4月下旬に設立総会の予定。2月27日からは、解体の仕事が、島根からエンボを調達してもらうなどしながら始まった。解体の仕事は、新聞報道によると、2～3年はかかり、総額で神戸だけで3000～4000億円の費用がかかるということで、建設コープの基礎をなす事業として重要な意味をもっている。家屋の修繕、新築などの相談も舞い込んできているが、態勢を整え早い時期に着手できるようにと、本部から現地入りしている建設部の山崎さんをはじめ、頑張っている。

雇用シンポ東京集会——東京地評との共催で「雇用シンポ東京集会」が3月4日、カンダパンセで300人の参加で開かれた。労働組合のローカルセンターとの共催は初めて。墨田、大田から都の職員の労働組合が、地元の中小企業主との共同で「最賃制」「福祉機器の製作」の取り組みをし

## ◎ センター事業団だより

1月から始まっている123運動が2月に入り俄然活発になってきた。前号でもご紹介させて頂いたが、今年は何と言っても3点セットである。3点セットとは①病院関連サービスマークの取得②院内感染対策としてのヒノキチオールを使った消毒清掃、そして③医療廃棄物の収集である。病院の環境を如何に安全で安心なものにしてゆくか。メンテナンスを行う立場からの提案としては業界に先駆けてセンター事業団が取り組んでいる。多くの組合員も確信をもって外への行動に立ち上がっている。2月の中旬から本部は毎夕6時に集中会議を行っているが、全事業所の活発な行動が本部を半ば強制的に動かしている状態で、関谷理事長いわく「毎日大変だよ。全く目が離せない」と。私を含めて本部の役員は殆ど事務所にいる暇がない。そんな中3月9日盛岡日赤病院と契約にこぎつけることができた。盛岡発のニュース

ているなどの実践の報告がなされ、これまで以上に労働組合の地域での活動が反映された集会となった。

イタリアへ、そしてイタリアから——東京地評会館の建設と阪神大震災の復興への支援への2つの大きな課題をもって、東京地評の矢部議長、中田連合会専務、田中センター事業団専務、設計コープの小池氏の4名が3月12日東京を出発し、エミリアローマニャ州、ローマへと向かった。3月30日の建設コープの設立に合わせて、エミリアローマニャのレガの州組織の理事長と建設コープの代表が日本を訪れる。

高齢者協同組合設立総会、三重で開かれる——昨年のセンター事業団の高齢者協同組合設立総会に次いで、三重で2月19日設立総会が開かれた。愛知でも「懇談会」が2月18日にもたれている。今年は、高齢者協同組合の花開く年にしたいものだ。

鍛谷 宗孝（労協連・事務局次長）

によれば「5年越しの営業がみのる」ということのように、受注に当たっては本当に様々な人のネットワークが発揮された。感謝に堪えない。もう一つの決め手が3点セットの一つである「ヒノキチオールを使った消毒清掃」であった。従来の消毒剤と異なり持続性効果に優れており、作業性も良くメンテナンスへの導入が可能となった。病院内の環境をより清浄に保つための一つの有力な方法が考案されたわけだ。これが123運動の牽引車となり今年には過去最大の拡大が予感されている。

3年次・2年次・1年次の事務局員研修会をあいついで行った。講演とレポート報告・講評・討論が今までの研究会のスタイルで、少々マンネリ化の感を否めない。研修会が果たしてきた役割を組織的に考えてみる必要を感じている。

坂林 哲雄（労協センター事業団・事務局長）